

特集 電源地域のサクセス・ストーリー

静岡県・浜岡町 1

着実な社会基盤整備の下 人にやさしいまちづくり

DATA PAL 浜岡町 5

**総合的な福祉施策で
元気な高齢者が住む町に** 6

People プロの眼 県西部浜松医療センター 室久敏三郎さん 9

People キーパースン 浜岡町商工会 坂野基さん 10

People サポートします 中部通商産業局 吉田盛厚さん 11

Focus 政策・制度

「PFI」 12

シリーズ ネットワークでまちづくり

宮崎県・西米良村「ワーキングホリデー」 14

休暇と仕事をセットにした 自己実現型の交流システム

愛知県半田市「アダプト・プログラム」 17

ボランティアの手で 道路や公園を美しく

Energy square

「原子力の研究、開発、
及び利用に関する長期計画」 20

情報クリップ

島根原子力発電所周辺で大規模な原子力防災訓練 22

山口県・上関町で第一次公開ヒアリング 23

エネルギー・プラザ青森2000開催 24

電気のふるさとじまん市 24

DVDソフトライブラリー「ふるさと発信シリーズ」のご紹介 25

大阪市で「電気のふるさと産直楽市」を開催します 25

電気のふるさと



地域のひろば No.174

表紙イラスト・石川森彦

「地域のひろば」は、電気のふるさとの"まちづくり"を応援する情報誌です。



浜岡ケアマネジャー連絡会のメンバー

おがさ
静岡県小笠郡
はま おか ちょう
浜岡町

着実な社会基盤整備の下 人にやさしいまちづくり

静岡県・浜岡町は遠州灘に面し、町の北部は牧之原台地の一部を形成しています。イチゴ、メロンなどの施設園芸作物、浜岡茶などが名産で、海岸に広がる浜岡砂丘は観光のポイントになっています。海岸から約一キロメートルの所を国道150号が貫通、浜松市と静岡市、清水市を結んでいます。また町の中心を北に向かう複数の県道で東名高速道路・菊川インターチェンジ（IC）、新幹線・掛川駅にアクセスできます。

浜岡原子力発電所は東海地方唯一の原子力発電所で、昭和五十一年に1号機、五十三年に2号機、六十二年に3号機、平成五年に4号機が運転を始め、現在5号機の建設が急ピッチで進んでいます。

浜岡町は昭和三十年に一町四村が合併して発足しました。当時は米、麦、甘藷（かんしょ）、茶などの小規模農業を中心としていましたが、道路整備の遅れな

どから、「低開発地域工業開発促進法」の適用地域となっていました。昭和四十二年、中部電力から原子力発電所立地の申し込みがありました。町では直ちに対応し、翌年「浜岡原子力発電所対策協議会」を発足させ、住民による地域開発の議論も活発なものとなりました。生

活改善や産業振興のための柱として、発電所立地に伴う財政的、経済的な期待が高まりました。

発電所の立地を契機に、「東遠地域開発の拠点」として、産業の振興、教育施設の充実、社会福祉の向上を目指した町づくりが加速しました。

住民の思いが 町づくりの基本

浜岡町では昭和五十五年に「浜岡町総合開発基本構想」を策定して以降、総合開発計画の改定を重ね、現在は平成八年度からの「浜岡町第2次総合開発計画（後期計画）」に基づく町

づくりが進められています。平成十三年度からは、現在策定中の「第3次総合開発計画」がスタートします。

浜岡町の町づくりを支えるもの一つに、発電所の新增設を背景とする豊かな財政力が挙げられます。昭和五十五年の総合開発基本構想の策定に当たり、町民の皆さんの町づくりに対する要望を、商工会や生産者組合などの各種団体や町内の各地区でとりまとめてもらった「要望書」により把握しました。特に多かつたのは、生活基盤の整備や産業振興に対するものでした。こうした要望を有識者や各種団体の代表者により構成される「浜岡町総合開発計画策定審議会」（以下、策定審議会）や町議会議員により構成される「浜岡町総合開発計画策定委員会」（以下、策定委員会）などの場で協議し、「浜岡町の発展の方向を明確にすること」を目的として同構想が策定されました。その中では、町長の思いである「浜岡町を個性豊かな町として発展させる」ために、四つの基本理念が設定されました。

●美しい緑の中で、豊かな暮ら

しができる街づくり（自然環境の保全と開発）

十一世紀に向けて何よりも人の心の大切さを優先し、個性的で

● 境の保全と開発との調和
● くらし良い街づくり（生活基盤の整備）

生きがいの創造と生きがいのあるくらしができる街づくり（教育・文化・福祉の向上など）健康で働く意欲のもてる街づくり（産業振興と生産基盤整備）

この計画がきっかけとなり、浜岡福祉会館が開館するなど、基盤の整備が着実に進展し、町民の皆さんのも暮らしやすさへの思いがより深まりました。

昭和六十年代に入り、「技術革新の進展」や「成熟化社会への移行」といった社会情勢の変化を受け、町づくりに対する要

ートを実施しました。その結果

改善や、企業誘致による産業振興などへのより一層の取り組みを求めていることが分かりました

昭和六十一年、策定審議会や
策定委員会での協議などを経て

基本構想で示された基本理念を踏まえつつ、町長が示した「二

流が行われるようになりました。

社会教育の充実、文化の振興、 スポーツの振興)

世界に向けて開かれた皆です
すめる町づくり（コミニニテ
スボーツの振興）

（イの形成）
さらに、具体的な重要施策は
次の通りです。

（下水道の整備、都市計画街路の整備など）

●海岸保全と町民リゾート整備 (海浜公園などレクリエーション)

・
ン施設の整備など)
暮らしやすい居住環境の推進
(住宅団地の整備など)

こうした計画に基づき、町道

「アスパル」が開館するなど、整備はもとより、町立図書館や上下水道をはじめとする基盤

生活の利便性と教育放課の充実が大いに進められました。

平成八年、第2次総合開発計画の後期計画を策定することに当た

て実施したアンケートでは、

新たに公園や体育施設の整備、生涯学習、高齢者福祉などの心

の豊かな実現、次第第2要望されました。これらを後期計画

は反映するため「地区勉強会」東定審議会や策定委員会で熱心に検討が行われました。

同年策定された後期計画では、

第2次総合開発計画の基本構想
を踏まえつつ、「町の着実な發展を図るとともに、真の豊かさ

を実感する町民生活の実現」に
向け、次の重点プロジェクトが
新たに示されました。

●快適で暮らし豊かな町づくり
(市街地整備、災害への対応、
公園整備・自然保全、下水道
・廃棄物対策)

●健康と福祉の町づくり(高齢
者福祉・医療・保健の充実)

●活力ある産業の町づくり(農
・商・工業の振興、交流施設
の充実、中山間地域振興)

●楽しく学べる町づくり(人材
育成、公民館活動の促進、ス

●世界の浜岡に向けた町づくり
(情報化社会、国際化への対応)
ポートフォリオ

浜岡町における 町づくりの将来ビジョン

「高齢者福祉」、学社融合(学
校、地区、家庭が一体となつた
教育、子育て)やボランティア
育成などの「教育」の検討が進

平成十三年度からは、新たに

策定される「第3次総合開発計
画」に基づく町づくりが始まり

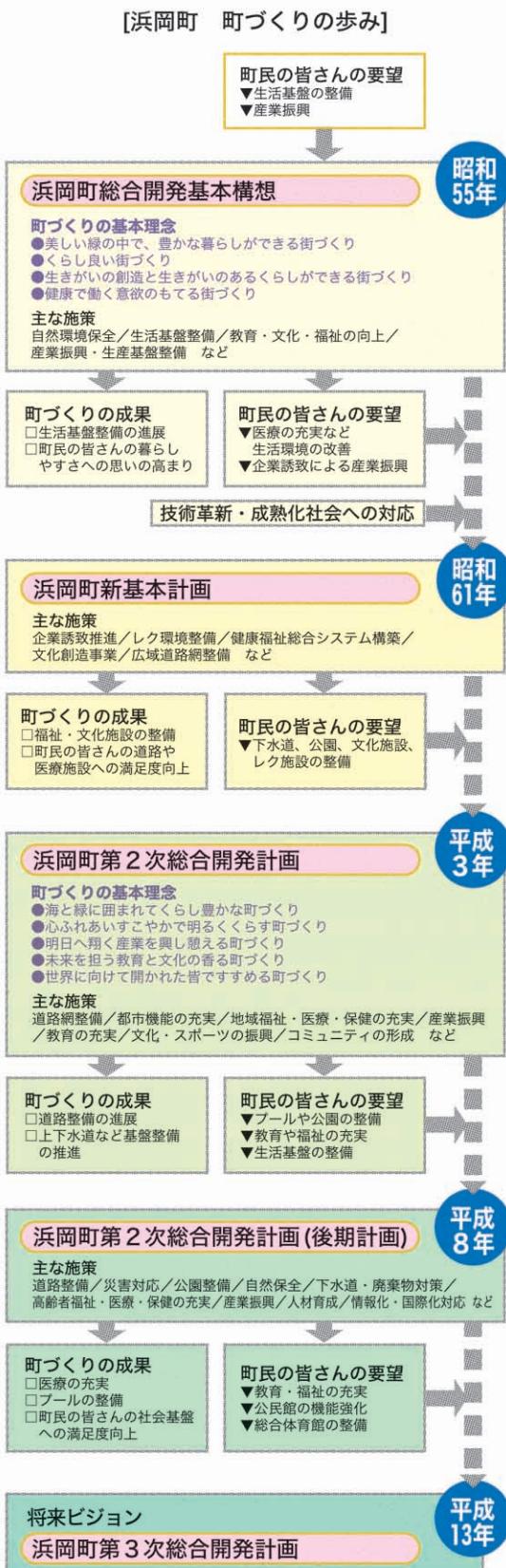
ます。計画策定に先立つアンケ
ートでは、幅広い施策に要望が
寄せられましたが、特に要望が
多かつたのは、教育・福祉のよ

り一層の充実、公民館のコミュ
ニティ機能の強化、総合体育館
の整備などでした。浜岡町では
この全体的な特徴を、要望の多
様化の進展、ソフト事業への要
望の高まり、と整理しています。

アンケートの要望を受けて、総
合保健福祉センター整備などの
これまで浜岡町では、総合開
発計画を作るに当たって、その
都度実施されるアンケートや、
発電所の新增設に際しての住民
懇談会などにより町民の皆さん
の要望の把握に努めてきました。

さらに、財政基盤をより強固

なものとするために、「産業振
興」施策も含めた計画全体が、地
区勉強会、策定審議会や策定委
員会の場で検討されています。





池新田工業団地

事業概要	設置年	従業者数
木型・金型製造業	S. 63	25
自動車用部品製造業	S. 63	43
化学製品製造業	H. 2	18
化学製品製造業	H. 4	10
化学製品製造業	H. 5	11
金属加工業	H. 5	13

昭和四十年代に東名高速道路や150号バイパスが開通し、五十一年の浜岡原子力発電所の営業運転開始後、浜岡町は農業に加え工業や商業が活性化。バランスの良い産業構造に転換しました。

発電所立地を契機に 産業構造の転換に成功

会や策定委員会などの協議を行い、その成果は計画に反映されきました。こうした姿勢が受け継がれ、来るべき新世紀を見据え、住民本位の町づくりが進められています。

幹線道路網の整備と 新たな産業への期待

昭和六十二年には池新田工業団地の分譲を行い、電源過疎地域等企業立地促進事業費補助金などの電源三法交付金に加え、独自の企業誘致資金利子補給制度を講じた結果、現在、十二ヘクタールの団地で六事業所が生産活動を行っています。

至る自動車専用道（地域高規格道路）の建設が進んでいます。この道路の起点となる重要港湾の御前崎港は、海外貿易の拠点としての大きなポテンシャルを備えています。

昭和五十年代以降、町道の整備が進み、改良率、舗装率とも大幅に向上了しました。浜岡原子力発電所3号機が運転を始めた昭和六十年代に町道整備は一段落。4号機以降は歩道整備など質的な向上を目的とした道路整備を行っています。

町民の要望にこたえ 上下水道の整備

昭和四十年代に整備された菊川ICに通じる大規模農道や150号線、そして原子力発電所の工事用道路として建設された御前崎港線は、広域交通時代の先駆けとなりました。以後、国道や県道の整備が進み、現在では平成十八年の静岡空港開港に向け、御前崎町から東名・相良牧之原IC、静岡空港を経て第二東名・金谷IC（建設中）に

浜岡町は原子力発電所の立地により人口が急増しました。從来から町民による上下水道整備の要望が強く、平成五年から本格的に上水道整備が進められました。平成八年には上水道基本計画（目標年次＝平成二十五年度）が策定され、「給水人口三百万人」、「給水普及率一〇〇%

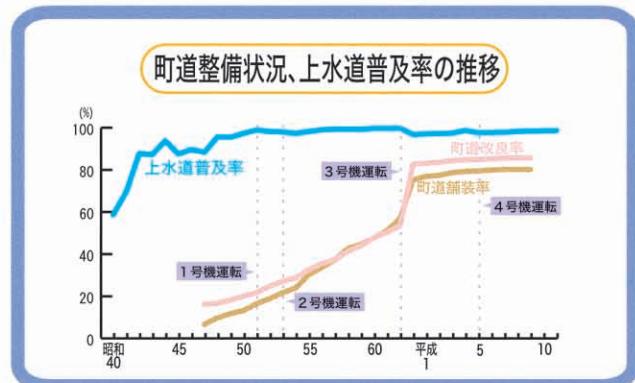
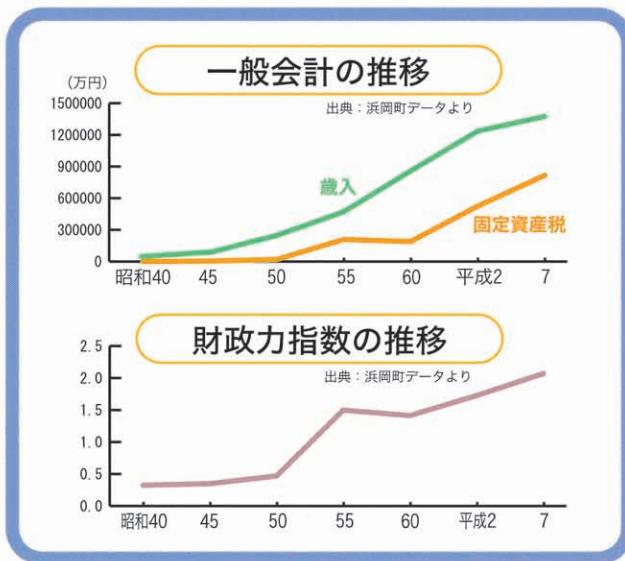
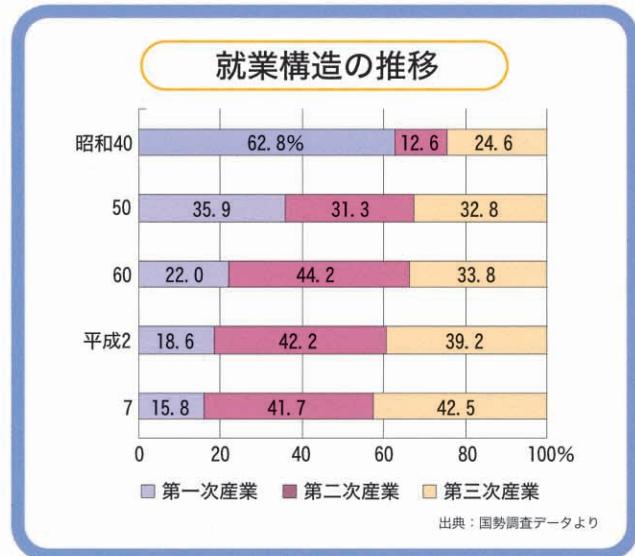
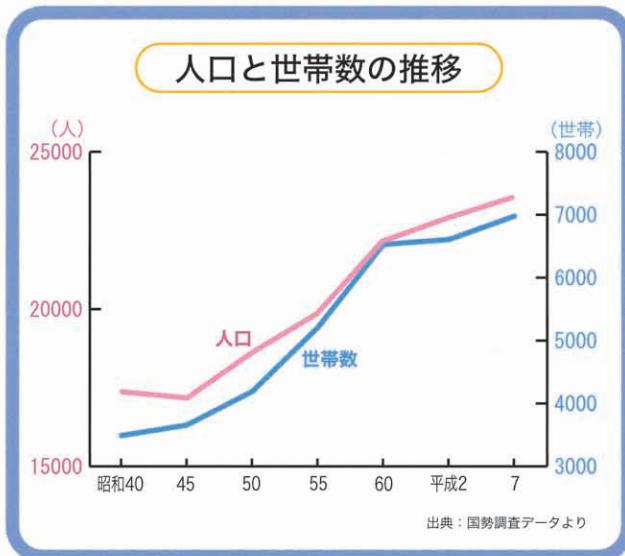
（平成八年度九八・三）」を目指して、その一環として、電源三法交付金を活用し、新たに二カ所の配水池を平成十五、十六年度に完成させる計画です。下水道整備は昭和六十三年に農業集落排水事業から着手し、現在は全六地区の内、四地区で全戸農業集落排水を実現。公共下水道も平成九年度で普及率六〇・四%に達しております。平成二十一年に全町整備を完了する計画です。



DATA PAL

浜岡町

■問い合わせ先／浜岡町企画商工課 電話0537-85-1112
浜岡町ホームページURL <http://www.plaza.across.or.jp/~hamaoka/index.htm>



浜岡町の原子力の歩み小史

- 昭和42年 中部電力（株）が浜岡を候補地と決定
- 昭和44年 1号機電源開発調整審議会で承認（第50回）
- 昭和46年 1号機着工
- 昭和47年 2号機電源開発調整審議会で承認（第58回）
- 昭和49年 2号機着工
- 昭和51年 1号機営業運転開始
- 昭和53年 3号機電源開発調整審議会で承認（第76回）
- 昭和55年 2号機営業運転開始
- 昭和57年 3号機着工
- 昭和61年 4号機電源開発調整審議会で承認（第104回）
- 昭和62年 3号機営業運転開始
- 平成元年 4号機着工
- 平成5年 4号機営業運転開始
- 平成9年 5号機電源開発調整審議会で承認（第134回）
- 平成11年 5号機着工

[発電所概要]

- 発電所名／浜岡原子力発電所（中部電力）
所在地／静岡県小笠郡浜岡町
- 1号 出力／54万キロワット（原子力） 運転開始／昭和51年3月
 - 2号 出力／84万キロワット（原子力） 運転開始／昭和53年11月
 - 3号 出力／110万キロワット（原子力） 運転開始／昭和62年8月
 - 4号 出力／113.7万キロワット（原子力） 運転開始／平成5年9月
 - 5号 出力／138万キロワット（原子力） 運転開始／平成17年1月（予定）

元気な高齢者が住む町に 総合的な福祉施策で

住民の悲願だった 総合病院の建設

浜岡町は長期的なビジョンに基づく健康福祉政策を進めています。医療の柱になっている町立浜岡総合病院は、昭和六十一年に電源立地促進対策交付金を活用して建設されました。昭和五十年代まで、総合病院は車で三十分以上掛かる町外にしかなく、浜岡の人たちは医療の不安を抱えていました。原子力発電所の建設に際しての住民懇談会やアンケートでも、「地域医療の充実」は「下水道整備」と並んで最も期待の大きな項目でした。住民の要望にこたえ、当初ベッド数一五〇（現在二六〇）で開院した浜岡総合病院は、その後も電源三法交付金制度を最大限に活用し、より高度な医療機器を整備しました。こうした取り組みにより、地域の医療水



町立浜岡総合病院



町立浜岡総合病院

外来患者数 約19万人
(町内利用46.9%)
入院患者数 約7万人
(町内利用41.8%)
時間外外来患者数 約700人／月
(いずれも平成11年度)

浜岡総合病院でのリハビリテーション。
四月には隣のケアミックスセンターに
専門的なリハビリ施設ができる

[町立浜岡総合病院の建設と電源三法交付金]

(単位：百万円)

年度	事業名	事業費 (交付金充当額)	交付金名
昭和60～61年	病院建設	2,718(1,651)	電源立地促進対策交付金 (病院関係のみ)
平成1～2年	病棟増築	2,426(1,264)	
平成4年	医療機器整備	286(260)	
平成8年	高度医療機器整備	133(120)	要対策重要電源立地推進対策交付金 (病院関係のみ)
平成9年	医療機器整備	127(120)	原子力発電施設等立地地域長期 発展対策交付金 (病院関係のみ)
	病院運営	154(130)	
	医療機器整備	106(95)	
平成10年	病院運営	308(280)	
	医療機器整備	17(17)	
平成11年	病院運営	304(287)	

者の運動履歴や体力をコンピュータで管理した健康づくりを行っています。また浴室や八十畳の和室はお年寄りのくつろぎの場として広く利用されています。

21世紀のテーマは 高齢者福祉の充実

浜岡町は「医療、福祉、保健の機能分化と連携を進め、高齢者福祉サービスの質を向上さ

浜岡ケアマネジャー連絡会



デイケアセンター



せる」ことを目標に、「老人保健施設」「療養型病床群」などの整備に取り組んでいます。現在、浜岡総合病院に隣接して「複合福祉施設」の建設が進んでいます（平成十三年五月オープン予定）。これは「ケアミックス」という考え方に基づく家庭介護の中間に位置する施設です。一階には介護支援センター、高齢者センターで、病院医療とデイケアセンター、訪問看護ステーション、町健康福祉課などが入ります。二階の老人保健施設（五十床）では、病気や怪我から回復した人たちが社会復帰するためのリハビリが行われます。三階の療養型病床群（五十四床）は介護を専門に行う施設です。

老人を地域で見守るネットワークづくり

ケアミックス体制構築にめどで「複合福祉施設」の建設が進んでいます（平成十三年五月オープン予定）。これは「ケアミックス」という考え方に基づく家庭介護の中間に位置する施設です。一階には介護支援センター、高齢者センターで、病院医療とデイケアセンター、訪問看護ステーション、町健康福祉課などが入ります。二階の老人保健施設（五十床）では、病気や怪我から回復した人たちが社会復帰するためのリハビリが行われます。三階の療養型病床群（五十四床）は介護を専門に行う施設です。

浜岡ケアマネジャー連絡会では、介護という観点だけではなく、元気な老人も含めた高齢者全員が、いつまでも健康な状態を続けられるための方策を討議しています。介護予防事業は、介護保険の支給対象とならない高齢者のための施策でもあります。機能訓練などのデイサービスが介護保険に組み込まれたため、「要介護」か「要支援」と判定されない場合は、従来よりも割高な費用を負担しなくてはなりません。老人の引きこもりをなくし、デイセンターなどでの健康相談や機能訓練、レクリエーションなどに積極的に参加させ、健康レベルを向上させる体制づくりの一環として、平成十四年にスタートするCATV事業では、健康支援端末機を利用して個人の健康情報を集積し、保健・福祉の各分野で活用して

いくことが計画されており、将来は医療分野にも発展していくことが期待されます。また保健婦の活動を支援する市民ボランティアの育成なども議題に上っています。

「事前の予防」の方が「事後の介護」よりコストは掛かりません。「元気な高齢者に介護の要らない生活を続けてもらう」、これが浜岡町の高齢者福祉の考え方です。



浜岡町民プール「ぶるる」の屋内プールとトレーニングルーム。トレーニングルームではインストラクターの指導で、データに基づいた健康管理が行われる

CATV“まおまお” 平成14年春に開局

テレビを使って
電話やインターネット

はまおかケーブルテレビ
“まおまお”は、浜岡原子力発電所5号機の増設に当たり、「住民一人一人がメリットを実感できるように電源三法交付金を活用したい」との思いから計画され、現在建設中です。通信機能に特色を持つCATVで、各家庭のテレビ画面で病院、学校、行政機関、原子力発電所などと素早い情報のやり取りができます。インターネットによるCATV電話（ファックス）で、町内の通話は何回かけてもすべて基本料金（月一五〇〇円）の範囲内。さらに月三〇〇〇円のインターネット契約を結べば、従来の電話回線とは比べ物にならない高速インターネットを行うことができます。高齢者でも扱えるよう、専用のリモ

コンで画面上のソフトキーをクリックするだけの簡単操作です。現在、ソフトの内容を検討する五つ

「住民に喜ばれるソフト」を開発中で、中学校の担任教師と保護者が「連絡帳」を通じてやりとりできるメルシステムや、商工会やJAによる「仮想商店街」「生産者情報」などの研究を進めています。

CATVで
高齢者の健康管理を

第五コンテンツ作業部会と町の健康管理部会では、CATVシステムを研究しています。高齢者の家庭に健康支援端末機を設置し、日々の健康データを集積し、保健婦や医師の健康指導の下、適切な福祉サービスを行っていこうというものです。

CATVパンフレット



(株)はまおかケーブルテレビ
総事業費 35億円
補助金 23億円
(電源立地促進対策交付金)



県西部浜松医療センター
室久 むろひさ **敏三郎** ひんざぶろうさん

県西部浜松医療センター名誉院長。医学博士。聖路加国際病院を経て、県西部浜松医療センターの設立に参加。平成3年から院長。「浜松方式」として全国的に評価の高いトータルな地域医療を実践。平成9年、本間義明町長に請われ浜岡町福祉政策顧問に就任。著書に『未病先治～健やかに生きる～』(静岡新聞社刊)など。

老人の力を引き出す 福祉ソフトづくりを

「在宅福祉」を基本理念とする介護保険の下では、高齢者を中心に据えた“ケアミックス”という考え方が重要になります。高齢者の健康状態に合わせ、機能を細分化した福祉体制を整備するということです。室久敏三郎さんは、平成八年度からスタートした浜岡町第2次総合開発計画で、「福祉政策顧問」として高齢者福祉事業の整備に携わっています。

病院は病気やけがを治療する場所です。治療が済んだらできるだけ早く、暮らしの場である家庭に帰つてもらうのが望ましい。でも、すぐには家庭生活が困難という人もいます。そういう人は老人保健施設で専門的・集中的に機能回復訓練(リハビリ)をしてから帰宅する。また家庭で介護しきることが難しいという人は、療養型病床群や特別養護老人ホームを利用する。「在宅介護」となつたらデイサ

ービス(通所介護)やショートステイ(短期入所)を利用して、地域社会と交流する。デイやシヨートは介護者に「休息の時間提供する」という重要な役目も持っています。これが高齢者の立場に立つたケアミックスです。浜岡町は全国の自治体と同様、これまで病院と家庭をつなぐ中間の施設が十分ではありませんでした。現在、浜岡総合病院の隣に平成十三年五月のオープンを目指しケアミックスセンターを建設中です。老人保健施設や療養型病床群、そしてデイやショートなどの機能を備えた複合福祉施設です。特養ホーム東海清風園も、個室を増やすなど居住環境を大幅に改善して、平成十四年に改築オープンの予定です。

浜岡は電源三法交付金などの活用で、着々と社会基盤の整備を行つてきました。福祉関係のハードも充実してきています。人間の幸せは、介護保険の世話にならずに健康な老後を送ることです。幸い浜岡の介護保険利用者は約十三%。ここは健康な老人が多い町なのです。今後はすべての老人の心を充足させ、「生きる力」を引き出せるような福祉ソフトづくりに力を注いでほしいと思います。

在宅老人の「引きこもり」「家庭内孤立」などの問題に地域全体としてどう取り組んでいけばいいか。室久さんは、ケアミックスセンターを「高齢者が自分の存在価値を示せる場所」にしなければ、と考えています。

あなたに立派な福祉施設ができます。でも老人の心の問題は解決されません。老人は介護されるだけの存在ではありません。人の役に立ちたいと思っているお年寄りもたくさんいます。ずっと大工さんをやつてきた人は、その技を生かしたいと思っています。花や野菜を作りたいと思つていても得られるとなれば、老人たちの人でも作業できるハイテク栽培場のようなものを造つて、出来た野菜を出荷すればいい。自然と触れ合い、いくらかの収入ハードも充実してきています。

あなたに立派な福祉施設ができるかもしれません。老人は介護されるだけの存在ではありません。人の役に立ちたいと思っているお年寄りもたくさんいます。ずっと大工さんをやつてきた人は、その技を生かしたいと思っています。花や野菜を作りたいと思つていても得られるとなれば、老人たちの人でも作業できるハイテク栽培場のようなものを造つて、出来た野菜を出荷すればいい。自然と触れ合い、いくらかの収入ハードも充実してきています。



浜岡町商工会 坂野 さかの もとし 基さん

706事業所で構成する浜岡町商工会の事務局長。ホームページやCATVのほか、商工会館の情報武装化プロジェクトも推進中で、年度内にはパソコンを一人に一台配備する予定。IT化に関しては電源地域振興センターの専門家派遣事業を活用している。

「揃え」を充実させることに力を注ぎます。またどの店のどんな商品、あるいはどんな陳列方法（カタログ構成）にアクセスが多かったなどの情報分析やマーケティング上の実験を行い、平成十四年春のCATV開局に向けたノウハウづくりを行います。

坂野さんたちカタログパーカ委員会のスタッフは、まおかCATVのインターネット（町内LAN）口一カルエリア・ネットワーク機能を利用して、地元商店と住民との新たな関係を提起しようと考えていま

す。CATV電話（ファックス）による町内通信には基本料金以上のお金は掛かりません。坂野さんたちはここに目を付けました。

ITとかインターネットといふと難しそうですが、電話やfaxならお年寄りにも楽に使えます。しかも町内ならしくらかけてもタダ。スーパーなどに出かけるのが難しい高齢者や障害者の人たちに、CATV電話（ファックス）で気軽に買いたい品物をしていただきたい。注文を受けた品物は、まとめてお届けになります。CATVという電子メディアを窓口に、大型店にはないフェース・トゥ・フェースの関係を築きます。御用聞きはお年寄りの日常生活を把握できますから、将来的には老人福祉や地域ボランティアなどの面でも貢献できると思います。

配送システムなど今後の研究課題は少なくありませんが、CATVのスタート時までにはクリアしたいと思っています。



ホームページURL <http://www.hamaoka.or.jp>

浜岡町商工会は十二月にインターネット上にホームページを開設し、「まおかカタログパーク」の提供を始めました。カタログパークとはネット上の工業団地・商店街のことと、①地域商工業者の製品や技術力、地域の特色を生かした特産品などを数多く国内、世界に発信する②浜岡町の住民に企業活動をアピールする③浜岡町内の異業種間交流を進める——という狙いがあります。

現在、まおかカタログパークには三十四社が参加しています。ネットビジネスで販路を広げ、たくさんの注文を獲得するにはどんな情報アイテムが利用できるのか、といった研究に取り組んでいます。他の企業団体や研究機関と広範囲にリンクして、参加事業所が直接、国内外の企業とB to B（企業間取引）やB to C（企業・消費者間取引）が展開できるようになっていきました。

ITとかインターネットといふと難しそうですが、電話やfaxならお年寄りにも楽に使えます。しかも町内ならしくらかけてもタダ。スーパーなどに出かけるのが難しい高齢者や障害者の人たちに、CATV電話（ファックス）で気軽に買いたい品物をしていただきたい。注文を受けた品物は、まとめてお届けになります。CATVという電子メディアを窓口に、大型店にはないフェース・トゥ・フェースの関係を築きます。御用聞きはお年寄りの日常生活を把握できますから、将来的には老人福祉や地域ボランティアなどの面でも貢献できると思います。



中部通商産業局
資源エネルギー部長

吉田 よしだ
もりひろ 盛厚 さん

浜岡町では今、平成十四年の開業を目指してCATVシステムの構築が進んでいます。これは「個人を発信源に、情報の双向化と地域のネットワークづくりを進める」という実に注目すべき取り組みです。各家庭にCATV電話が配備され、町内の通信がとても便利になるのです。IT（情報通信技術）の急速な進展で可能になつたのですが、浜岡町は誠にいいタイミングで取り組んだと思います。

はまおかケーブルテレビが動き始めるに、相当の反響が出てくるのではないか。小笠郡全体での多様な活用が期待でき、「大きな地域づくり」の実現に向けた格好のモデルケースになるでしょう。浜岡町のCATVシステムは、住民一人一人の暮らしの向上と地域の発展に向けた先駆的な取り組みです。わたしたちも、浜岡の皆さんのように、『温かい』気持ちで、応援させていただきます。

住民の幸せと 広域の発展を考える 浜岡町を応援します

所との共生に取り組んでくださいました。とてもありがとうございます」とだと思います。浜岡は気候温暖な所ですが、住民の皆さんのが気持ちはそれ以上に温かい、わたしは感じています。

浜岡町は電源三法交付金を上手に活用して、病院や下水道、道路、プール、図書館など、社

成十三年春には、複合福祉施設が完成して、医療・保健・福祉の総合体制が出来上がるといいます。高齢者を見守る上で大切な人づくり、人的ネットワークの構築も進めているそうです。浜岡町は今以上に住みやすくなるでしょう。

に情熱を傾ける人材がいます。こうした皆さんへの努力により、例えは商店との間で「電子版御用聞き」といったことができるようになつてお年寄りに喜ばれるでしようし、商店街も活性化していくでしょう。一方、わたくしたちや静岡県、また中部電力などの企業体にとつても、このチャネルは、多様で付加価値の高い情報を受け発信できるメディアとして、大いに期待できるのです。

浜岡原子力発電所は東海地域や名古屋圏への重要な電力供給基地で、現在は5号機を建設中

会基盤の整備を確実に積み上げてきました。浜岡総合病院のように、『広域の拠点』としての

地域振興を図る上でのポイントは、特産品開発や情報発信などいくつか考えられますが、特